

東奈良遺跡と銅鐸

東奈良遺跡は、昭和46年（1971年）に発見された、弥生時代の大規模な遺跡です。

その後、開発に伴う発掘調査が続けられ、昭和48年（1973年）に文様の入った銅鐸鑄型の破片が、さらに翌年には完全な形の鑄型が発見されました。

東奈良遺跡で出土した銅鐸の鑄型は破片を含めて36点あり、その他にも銅戈やガラスの勾玉の鑄型、韃口が発見されており、この地に鑄造に携わった人々と工房のあったことがわかります。



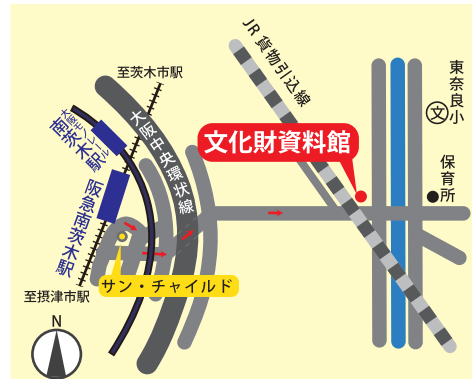
銅鐸の鑄型の発見から26年たった平成11年（1999年）春、東奈良遺跡のほぼ中心部と考えられる場所から小さな銅鐸（小銅鐸）が出土しました。この小銅鐸の内部からは、舌と呼ばれる金属の棒が発見され、風鈴のように音を鳴らしていたことがわかりました。その大きさは、高さが14.4cm、幅9.5cm、重さが750gと小さなものです。銅鐸の身の部分に文様が施してあり、小銅鐸としては珍しいものです。



●利用案内

- 開館時間** 午前9時～午後5時
- 休館日** 毎週火曜日（その日が祝日の場合を除く。）
祝日の翌日（その日が日曜日の場合を除く。）
12月29日～翌年1月3日
- 入館料** 無料
- お願い** 他の見学者に迷惑のかからないように静かにご覧ください。

●案内図



阪急・大阪モノレール「南茨木駅」から東へ300m

〒567-0861 茨木市東奈良三丁目12番18号
電話 (072) 634-3433

茨木市立文化財資料館

Ibaraki Municipal
Cultural Properties Depository



茨木市教育委員会

茨木の歴史と文化財

● 旧石器時代

今から数百万年前、人類が地球上に誕生してから、1万5千年前までの長い間は旧石器時代と呼ばれ、まだ土器をもたず、石や動物の骨などの道具しかありませんでした。



茨木でも、この頃の石で作ったナイフの形をした石器が太田や郡の付近で見つかり、古くから人類の往来があったことがわかっています。

● 縄文時代

土器が使われ始め、弓矢等の狩猟道具も発明されました。

茨木で最も有名な集落は、墓城が見つかった縄文時代の終わり頃の耳原遺跡です。それより以前の土器や石器類も発見されています。



● 弥生時代

稲作が始まり、人々の生活は安定してきました。

茨木で稲作を示す遺物は、土器の底に粃殻のついたものや農耕に用いる鋤や鍬などがあります。

東奈良遺跡からは石製の銅鐸鑄型や銅鍬などの金属製品も出土しています。



他にも目垣遺跡・太田遺跡・郡遺跡・宿久庄遺跡など、この時代には多くの集落が営まれていたことがわかっています。



茨木にも紫金山古墳や將軍山古墳のように、100mを超す大きな古墳が造られました。古墳には様々なものが副葬され、それらが出土しています。



● 古墳時代

人々の暮らしが豊かになると首長と呼ばれる権力者が現れ、古墳と呼ばれる墓を造って、死後もその権力を示しました。



● 奈良・平安時代

律令制がしかれ、茨木は島下郡に入りました。氏族寺院の造営が盛んになり、穂積廃寺・太田廃寺・三宅廃寺などが古代寺院として知られています。神社では式内社10社13座が今も残されています。

● 鎌倉・室町時代

茨木の山間部には鎌倉時代末から室町時代にかけての中世墳墓が多く見られます。クルス山墳墓は小石仏や五輪塔をともなう数百基と、数カ所に散在する火葬場からなっており、北宋銭も出土しています。



● 安土・桃山時代

茨木の山間部千提寺・下音羽地区では「隠れキリシタン」の遺物が発見されています。これはこの辺りがキリシタン大名として有名な高山右近の領地であったことと関係すると思われる。



● 江戸時代

元和元年(1615年)に一国一城令が出され、茨木城はなくなり、茨木村



は在郷町として栄えました。西国街道沿いに建つ「郡山宿本陣」は江戸時代の面影を残しています。

● 民俗資料

様々な農具や江戸時代から昭和の中頃まで行われた寒天製造の用具などが保存されています。

